



●第一特集／小さいのに狭くない理由

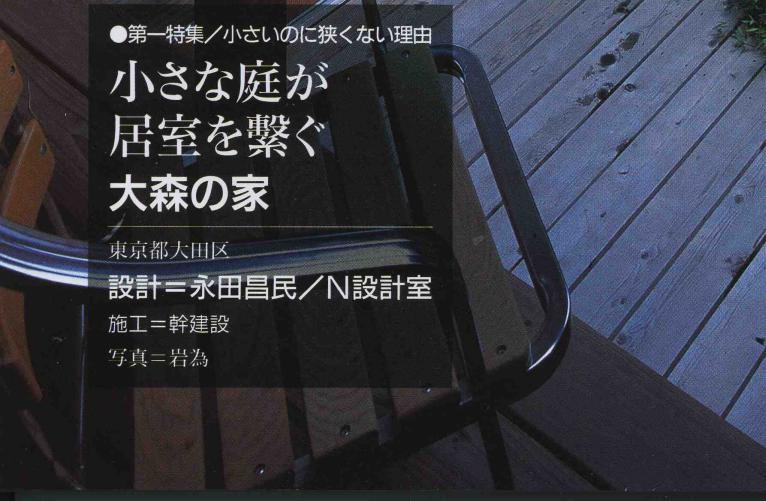
小さな庭が 居室を繋ぐ 大森の家

東京都大田区

設計＝永田昌民／N設計室

施工＝幹建設

写真＝岩為





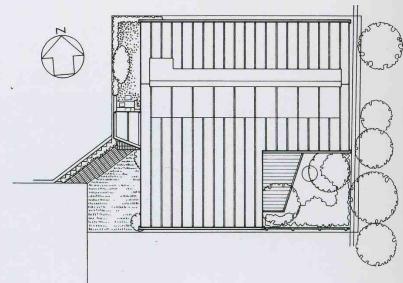
▲2階寝室から賃子のテラスと中2階書斎ベランダをみる／小さな庭を介して居室が立体的に繋がる住まい 前真写真：中2階書斎のベランダから庭と居間を見下ろす。左奥のひときわ繁った箇所は、造園家・田瀬理夫氏考案の「五×縁（40頁参照）」を設けており、水鉢が配されている



▲上写真：1階居間より庭をみる／室内の床、テラス、そして庭はほぼ同じ高さ。室内から中間領域を介し、庭までが親密で広かりのある空間となっている。右手奥の小さな穴の向こうは半階下がった駐車場。家の外に立つこの穴を通して庭の緑へと視線が抜ける

▼下写真：居間からテラスを見る／手前は食卓、右手に食堂。コンパクトな空間の中にも明暗があることで、さりげなく場の雰囲気がしつらえられる

▼配置図



大森の丘陵地、某企業の寮の跡地。約1500m²を1分割し分譲された敷地内には、1・35mの高低差がありた。この半階の高低差を生かし、スキップフロア形式の断面計画とした。また東側は、「ドロッジ」という名前からもうかがえるなかなかよい雰囲気のアパートの玄関へと続くケヤキやモミ等の落葉樹の茂る路地に面している。この緑と連続し一体となるよう庭を設け、その庭を開むように各居室を配した。分譲地内の窮屈そうに建つてある家並みからは閉ざされた、小さな庭と静かな空間ができた。しかしあとアプローチには門を設けず、私道方向から車庫の奥の開口を通して明るい庭の緑を見えるようにすることで、分譲地内の私道に対して開放的に共用部との繋がりを大事にした。

車庫と同じ床レベルの玄関を入り半階上がるオーブン形式の台所を持つ居間である。居間の床、テラスのスノコ板とほぼフラットに庭の土を盛ることで、空間の広がりを持たせた。テラスは数人で座布団を出してお茶を飲めるくらいの広さで、庭の木々、草花との視線が近く、草の上を這う虫も間近に見える。また、この階から半階上がる子供部屋になる可能性のある夫婦の書

斎である。ここからはテスクワードを介して庭の緑が、その向こうはアパートの路地の緑が見える。ベランダで洗濯物を干す奥さんとテラスで庭仕事をするご主人との会話も楽しそう。アパートの路地と本敷地の間の無機的なコンクリートの擁壁沿いに建てたワイヤーメッシュが将來ツル植物で覆われれば、路地との境界線が曖昧になり、より奥行きを感じられる庭へと変化するだろう。また、半階上がるとホールと寝室の階である。このホールでは奥さんのひくピアノの音が階段を通じて居間でくつろぐご主人の耳にボロンボロンと届くくらいの丁度いい距離。そして、寝室からは南に大きく開いた窓から庭とアパートの路地の緑を見下ろし、南東方向に日を向けると大きく視界が開け、遠く広い空が広がっている。この小さな庭がこの家の各部屋をひとつにつなげてくれるのである。

（飯田暢子）



■緑と親しむ「大森の家」の植栽計画

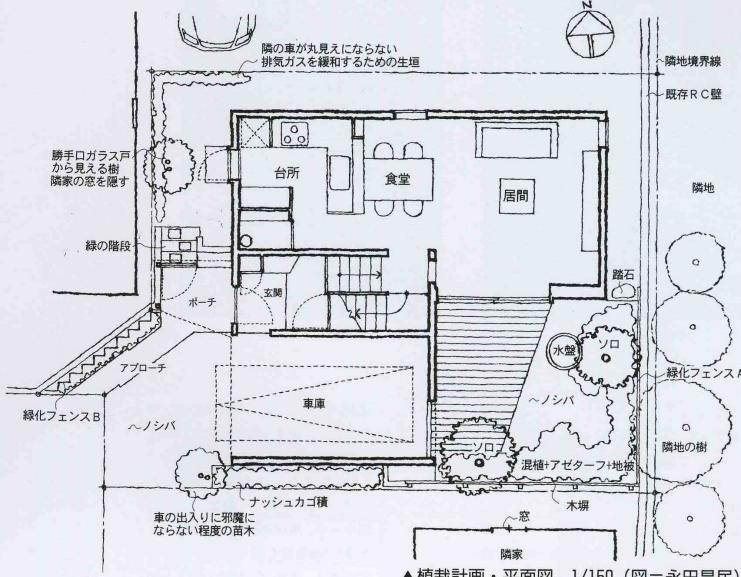
詳細図集



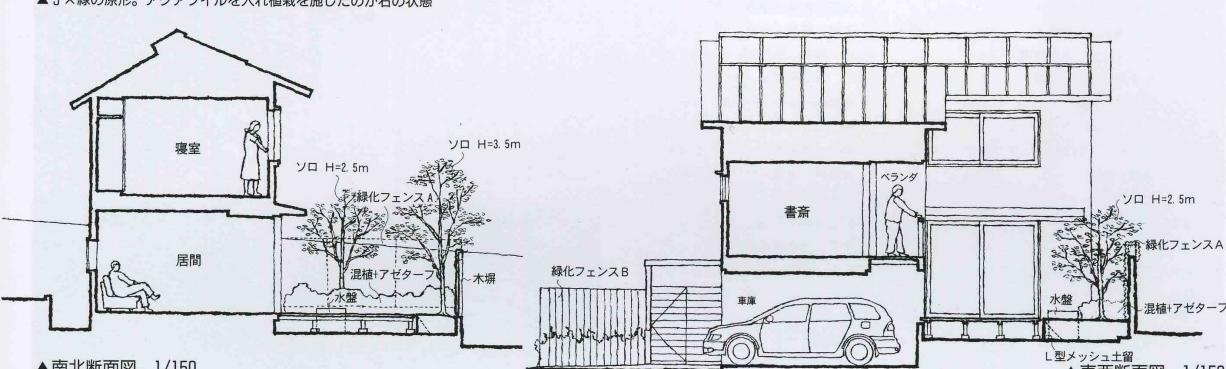
▲2階ベランダから野趣に富む庭を見下ろす（写真＝岩為）



▲5×緑の原形。アクアソイルを入れ植栽を施したのが右の状態
(写真提供=プランタゴ)



▲植栽計画・平面図 1/150 (図=永田昌民)



▲南北断面図 1/150

街と住宅の関係性 田瀬理夫

庭をつくるときに心がけていることは、その大小に関係なく、まず、

・マドから何を見るか？
・マドから何を見るか？

ということです。

空が見えるのか？

隣地の樹木が見えるのか？ 塀なのか、建物か？ 借景か遮景か？ そして自分の家の地面はどう見えるのか？ などです。

小さな庭の場合は特に地面のレベルがとても重要です。部屋の床や外のデッキと同じかそれ以上に高くあげて、地面を見下さないようにする

と広がりが出ます。

まだあまり知られていないのです

が、金網のカゴにココヤシや不織布のシートなどを内貼りして、カゴの中に入人工軽量土（アクアソイル）を充填する工法があります（実は私が考案したもののです）。この工法だとカゴの側面にも植栽することができます。芝や草で内貼りするとすぐ垂直の草土手が出来るわけです。立方体のカゴの場合、上面と四側面、計5面が緑になるので5×緑（ゴバイミドリ）*と呼んでいます。「大森の家」ではテラスの際と水盤部分を使用しています。

借景にはその手前に水平の額縁を、遮景には木立をという具合にして、できる限り植物を使って造園することを考えます。

次に周辺のまちの様相を感じること、つまり駅や幹線道路から自宅までの沿道の建物や緑のたたずまいで

す。今やどこでも全国共通の建材が高密度に集積して、緑の少ないまになってしましましたが、それでも少しほとんど地域らしい景色の断片は残っているものです。

「大森の家」の場合は駅前の神社の大木（タブノキ、厳島神社の弁天池）（私が見たときは水はありませんでした）、南隣地のシイ、クス、ケヤキなどのお屋敷の樹木群などは地域を表徴するものです。それらを増幅するような多種多彩な植物（ここでは60種以上の在来種）や水を使うようにしています。

最後に「門がまえ」はどうしたらいいかを考えます。車が鎮座するよな「車がまえ」にならない様にすることが大切で、この場合は、永田さんにお願いして、玄関までのレンガのアプローチを細くしてもらい、両側の隣地沿に「5×緑」で立体的な緑を配し、ガレージ前は芝生にしています。碎石のわだちはもいずれ野芝で覆われるはずです。しばらくすると、両側の緑もフサフサ繁り、緑豊かな門がまえとなるでしょう。

「大森の家のきわめつけはガレージ奥の開口です。それは小さな中庭の多彩な植物の四季折々の変化や鳥のさえずり、虫の音さえもがあふれて出る、おすそわけマドなのです。永田さんは、いつもドラエもんから秘密道具をかりいているにちがいありません!!」

たせ・みちお／プランタゴ

*5×緑の問合せ先：㈱アネックストリーグ緑化事業部 電話03-3928-01204-1